

**医療救護所における  
医療救護班等活動マニュアル  
(修正案)**

令和 4 年 3 月

練馬区災害医療運営連絡会

## 目次

医療救護活動の流れ	1
災害医療の7つのキーワード	2
医療救護活動の指揮命令系統図	3
<b>第1章 医療救護所への参集</b>	<b>4</b>
1 参集条件	4
2 参集準備	5
3 責任者の決定	5
4 医療救護所の運営従事者	6
<b>第2章 医療救護所開設</b>	<b>7</b>
1 施設の安全確認	8
2 医療救護所の開設	8
3 開設等の報告	8
<b>第3章 医療救護活動</b>	<b>9</b>
1 傷病者来所	10
2 傷病者の振分け	10
3 トリアージ	11
4 軽症者手当／調剤・投薬	14
5 重症者等処置／搬送	15
6 医療救護所本部（記録係）運営	16
7 医療救護所における新型コロナウイルス感染症等感染対策	
<b>第4章 医療救護所閉鎖</b>	
1 医療救護所の閉鎖	
<b>第5章 時系列活動表</b>	
四師会の時系列活動表	
<b>第6章 資料編</b>	
1 連絡先一覧	
2 医療救護所の運営様式（様式1～9）	
3 医療救護所配置図	
4 備蓄医薬品等一覧表	

## 7 医療救護所における新型コロナウイルス感染症等感染対策

医療救護所においては、人員やスペースに制約があり、十分な感染症対策を取ることができません。ついては、新型コロナウイルス感染症の流行期においては、可能な限り、以下のような対応をお願いします。

### (1) 従事者個人における対策

#### ① 物品の着用

咳・発熱等の症状のある人や濃厚接触者と応対する際には、使い捨て手袋やマスク、フェイスシールド等を適切に選択し、着用します。

#### ② 衛生管理

こまめに石けんで手を洗い、アルコール消毒をします。洗っていない手で目や鼻、口などを触らないようにします。

### (2) 環境の整備

#### ① 人と人の距離を取る

できる限り人と人の距離を取り、密集した空間を作らないよう配慮します。

#### ② 換気

気候上可能な限り常時、困難な場合は、こまめに（30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する）2方向の窓を同時に開けて行うようにします。窓が一つしかない場合は、ドアを開けます。換気扇がある場合は、換気扇と窓の開閉を併用します。

#### ③ 共用部分の消毒

複数の人が手で触れる共用部分を使い捨て手袋、マスク等を着用し、消毒します。頻度は、例えば2時間ごとなどルールを決めて行うことが望ましいです。

### (3) 施設の使用について

参集している医療従事者等の人員数や使用できる学校施設のスペースにより、感染症疑い患者への対応方法は異なります。以下に、いくつかパターンを示しますので、現場の医療従事者の判断で対応方法を決定してください。判断に迷う場合は、災害医療コーディネーターにご相談ください。

#### 【パターン1：通常対応】

通常どおりトリアージや診察、施術、調剤・投薬を行う。その患者の動線については、必要に応じて消毒を行う。

**長所** 追加の人員とスペースなしで対応できる。

**短所** ゾーニングができていないため、感染対策が不十分。

【パターン2：隔離対応】

咳・熱症状者スペースに案内し、医療従事者が感染対策を講じた上で巡回または常駐し、健康観察や医療行為を行う。

**長所** 感染疑い患者を一般患者と分けられるため、十分な感染対策を行える。

**短所** ・人員が少ない場合対応が難しい。  
・ケガのない感染疑い患者との区分けができない。

【パターン3：半隔離対応】

各エリアの中において、咳・熱症状ありとなしで、パーティション等でスペースを区切り、人員も分割し対応する。

**長所** **短所** パターン1と2の折衷案

(参考) 新型コロナウイルス感染症対策として使用できる物品

	品目	数量		品目	数量
1	パルスオキシメーター	1	2	体温計	4
3	酸素ボンベ (500L)	3	4	減圧弁	3
5	フェイスマスク	3	6	アイソレーションガウン	10
7	ヘアキャップ	10	8	不織布マスク	200
9	フェイスシールド	10	10	ポンチョ (雨具)	20
11	液体石けん	1	12	ペーパータオル (200枚)	2
13	ニトリル手袋S	250	14	ニトリル手袋M	750
15	ニトリル手袋L	50	16	手指消毒ジェル (500ml)	20
17	消毒用エタノール (500ml)	4	18	ウエルパス手指消毒液 0.2%	1
19	次亜塩素酸ナトリウム	1			

※備蓄医療資器材等一覧から抜粋